

平成25年度 町長施政方針

第5次総合計画に掲げる「緑の風が吹き渡るふるさと 暮らし輝く環のまち・おおき」実現のため、国の緊急経済対策を踏まえた積極的な予算を編成し、防災・減災対策や暮らしの安心確保と地域経済の活性化等に取り組む。



水と緑輝く 環境先進のまち

「大木町もつたいない宣言」の達成に向けて、住民が取り組み易くより一層分別の徹底が図られるシステムの構築を目指す。

「おおき循環センターくるるん」の運営については指定管理者の効率的な管理と施設維持費の低減に努める。

合併処理浄化槽の設置促進を図るため、単独処理浄化槽等からの設置替えに対する上乘せ補助として、新たに飲食店等の大型浄化槽を対象とする。また、浄化槽設置促進、維持管理の徹底と費用削減に向けた浄化槽維持管理組織の設立を目指す。「堀」の整備・保全では、国営・県営事業と町単独事業を組み合わせ、関係機関や地元との連携を進め事業の進捗を図っていく。併せて、「大木町景観ワーク

誰もが元気になる 健康福祉のまち

「シヨップ」の提言を具現化するための予算措置する。

明日を担う子どもたちの健全な成長と親の育児力のアップ、さらに子育てを地域社会で支え合うまちづくりを目指し、家庭訪問事業の充実と要保護児童対策地域協議会の機能強化。また、仕事と子育ての両立支援のために多様化する就業形態に合った支援事業を実施する。

高齢者支援は、既存の介護保険制度だけでは不十分であり介護予防を柱とした、「生きがい活動支援通所事業」「高齢者・障がい者ホームヘルプ事業」「配食サロン」等に積極的に取り組む。障がい者支援は、障がい児の放課後の居場所づくり事業等、社会福祉協議会と連携を密に事業の充実を図る。また、町ぐるみの健康づくり活動の促進を図るため健康診断受診機会の拡大・受診者数の増加に努める。

次代を担う人を育て 教育文化のまち

平成25年度の主要な教育施策として、「確かな学力を育む教育の充実」「豊かな心、健やかな体を育む教育の推進」「地域に開かれた、信頼される学校づくりの推進」を策定し、教育文化スポーツの充実を図る。

豊かで活力に満ちた 元気産業のまち

基幹産業である農業の振興は、担い手の育成・支援、土地利用型作物の生産性・収益性の向上や高収益型作物の産地の維持拡大にJ Aと連携し取り組む。また、循環型農業や地産地消を引き続き促進し、農産加工品開発や農業体験等のイベントをとおして都市農村交流を図る。商工業の振興は、預託融資資金の利子補給や地域振興券発行助成、住宅改修助成事業等に取り組む。町内中小事業所の育成・振興を図る。

さらなる発展の 基盤が整ったまち

平成26年度工事着手に向け、八丁牟田駅前整備計画を進め、市街地環境整備に努める。道路・交通網の充実では、県の事業を活用して計画的に整備を進める。緊急性のある通学路の安全対策として路肩カラー舗装事業に取り組む。消防・防災体制の充実を図るため、自主防災組織の避難訓練等とおして自主防災体制の醸成に努める。また、防災情報・国民保護情報等を迅速かつ確実に伝達する防災情報伝達システムの構築を図っていく。

みんなの力で未来をつくるまち

すべての人がお互いに人権を尊重し、ともに幸せに暮らすことができる社会づくりに向け、人権教育・啓発活動の推進や男女共同参画の社会環境づくりに努め、多様な分野における参画・協働のまちづくりを進める。また、校区コミュニティセンターを拠点とした行政区や校区単位でのコミュニティ活動の構築を図っていく。

平成24年度一般会計補正予算(3月)

(全員賛成で可決)

2億2803万3千円増 総額51億7450万1千円

【歳入】

- ・地方交付税……………2754万2千円
- ・国庫支出金……………6658万8千円
- ・県支出金……………2856万4千円減
- ・繰入金……………1億3394万4千円減
- ・市町村振興宝くじ分配金……………4811万7千円
- ・町債……………6340万円
- ・福岡県市町村災害共済基金の解散に伴う財産処分金……………1億5362万3千円

【歳出】

- ・職員退職手当組合負担金……………1411万1千円
- ・財政調整基金積立金……………1億5362万4千円
- ・クリーク防災機能保全対策事業費負担金……………873万3千円
- ・農村振興総合整備事業負担金……………2500万円
- ・全国瞬時警報システム自動起動装置整備事業……………2330万円
- ・舗装補修事業……………1億4060万円

平成24年度特別会計補正予算(3月)

(全員賛成で可決)

国民健康保険 944万7千円減 総額17億5902万1千円
後期高齢者医療 93万4千円減 総額1億3943万2千円

平成24年度大木町水道事業会計補正予算(3月) (全員賛成で可決)

債務負担行為の限度額を事業費の確定により、387万3千円に減額

大木町議会活性化特別委員会中間報告

大木町議会活性化特別委員会は平成24年3月23日議会定例会において設置され、次の2点を活動の柱として、この一年間委員会活動を展開した。

1、景観ワークショップについて

将来の町づくりを展望する、町づくりの基礎となる『土地利用計画』へのステップとして、『景観ワークショップ』に取り組んだ。

さらに、福岡県建築士会の景観部会報告書、区長会からの要望書等を基に提言書を作成し、平成24年11月7日石川町長へ提言書を提出した。

2、議会基本条例について

議会全体の活性化に向けての『議会基本条例策定』について、先進地の条例などを参考にしながら条例の素案を作成した。

さらに、通年議会、反問権が県内唯一運用されている先進議会である川崎町議会視察研修を実施した。今後、議会基本条例案策定に向けて作業班を編成し、平成25年9月議会定例会への提案を目指している。

平成25年3月8日
大木町議会活性化特別委員会
委員長 徳永 豊